

# 主要国の野菜の生産動向等

調査情報部

## 1 中国

日本が輸入するたまねぎの多くを中国産が占めていることから、今号では、たまねぎの生産動向等を紹介する。

### たまねぎの生産・価格・輸出動向

#### (1) 生産動向

たまねぎは中国の広い地域で生産されており、作付面積は拡大傾向にある。主な産地としては、雲南省、四川省、河南省、山東省、江蘇省、黒龍江省、吉林省、内モンゴル自治区、甘肅省などがあり、その中で

も、雲南省、山東省、甘肅省は大きな割合を占める（図1）。

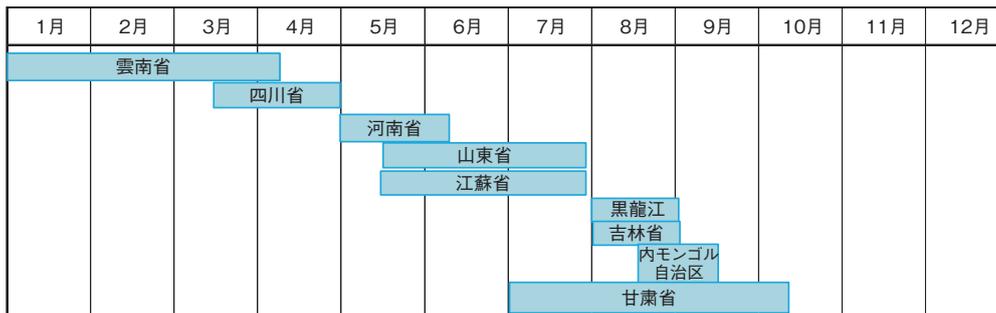
雲南省を始めに、四川省、河南省、山東省と順次北上する形で1月から10月まで出荷地域がリレーされて、継続的に出荷される（図2）。

図1 たまねぎの主な生産地



資料：機構作成

図2 主な生産地の出荷時期



資料：機構作成

### ア 雲南省

中国の最も西南に位置する雲南省では、1月～4月上旬に収穫が可能であり、食習慣的に現地の人はたまねぎをほとんど食さないが、他の地域よりいち早く出荷できる利点を生かして、輸出用としてたまねぎの生産が行われている。

主な産地の栽培面積は、<sup>げんほう</sup>元謀県2900ヘクタール、<sup>けんすい</sup>建水県1700ヘクタール、<sup>つうかい</sup>通海県900ヘクタールであり、この3つの地域で雲南省全体の8割以上を占めている(図3)。

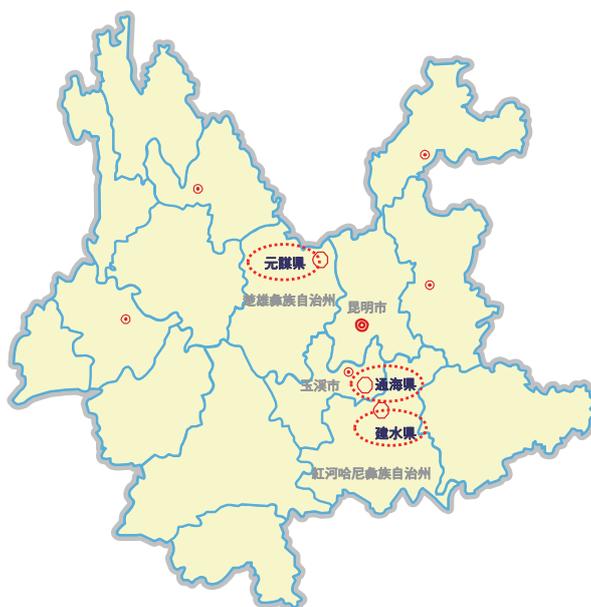
生産は、主に、合作社<sup>(注)</sup>と個人農家に

よって行われており、合作社の栽培規模は70ヘクタール以上、個人農家も大規模栽培であれば10ヘクタール以上となっている。収穫されたたまねぎの大部分は、山東省の野菜輸出加工企業によって買い取られる。

近年、土地の賃借料が年5～10%高、人件費は年約10%高など栽培コストが上昇している。関係者によると、2015年の元謀県におけるたまねぎの栽培コストは、10アール当たり4500元(8万1000円)以上となっている。

また、現在、収穫期に入っているが、前

図3 たまねぎの主な生産地(雲南省)



資料：機構作成

注：行政階層は、①省→②市・地区・自治州→③県 の順序となる。

年の相場が良かったため栽培面積が増加しており、天候にも恵まれていることから、生産量は1割ほど増加すると見込まれている（表1）。

なお、為替レートは、1元＝18円（2月末日TTS相場：17.7円）を使用した。

注：協同組合組織。

表1 たまねぎの栽培面積・生産量・単収（雲南省）

	2013年	2014年	2015年	2016年
栽培面積 (ha)	4,333	6,667	6,133	6,500
生産量 (万トン)	22	50	46	50
単収 (トン/10a)	5.1	7.5	7.5	7.7

資料：雲南省農業庁種植業管理处、元謀県農業局蔬菜外銷弁公室

注：2016年は見込みの値となる。

## イ 山東省

山東省は中国最大のたまねぎ生産地域であり、中でも、濰坊市、済寧市、青島市、臨沂市において栽培が盛んである（図4）。最近では低温貯蔵施設を利用して、聊城

市、荷澤市、済寧市の金郷県などで栽培規模を拡大させており、これらの地域では前年に比較して15～20%栽培面積が増加しているといわれている（表2）。

山東省では、合作社や農家のほか、輸出

図4 たまねぎの主な生産地（山東省）



資料：機構作成

表2 たまねぎの栽培面積・生産量・単収（山東省）

	2013年	2014年	2015年	2016年
栽培面積 (ha)	33,333	43,333	36,667	42,167
生産量 (万トン)	225	260	250	280
単収 (トン/10a)	6.8	6.0	6.8	6.6

資料：山東省農業庁種植業管理处

注：2016年は見込みの値となる。

加工企業によっても生産されている。輸出加工企業は、100ヘクタール以上の規模で生産しており、自社基地のほか合作社や農家と提携して栽培することも多い。

### ウ 甘肅省

甘肅省の主な生産地域としては、酒泉市、嘉峪関市および武威市などが知られている（図5）。

品質が良いことで知られる甘肅省のたま

ねぎは、約6割がロシア、日本、韓国、東南アジアへ輸出されている。日本向けでは、皮むきされたたまねぎ「むきたま」の割合が年々増えており、今では7割以上を占めている。

しかし、近年、たまねぎの価格は低迷している一方、生産コストが絶えず上昇し収益が低下しているため、ほかの作物に切り替える農家が多くみられることから栽培面積は減少傾向となっている（表3）。

図5 たまねぎの主な生産地（甘肅省）



資料：機構作成

表3 たまねぎの栽培面積・生産量・単収（甘肅省）

	2012年	2013年	2014年	2015年
栽培面積 (ha)	17,333	18,000	14,667	13,300
生産量 (万トン)	91	160	120	110
単収 (トン/10a)	5.3	8.9	8.2	8.3

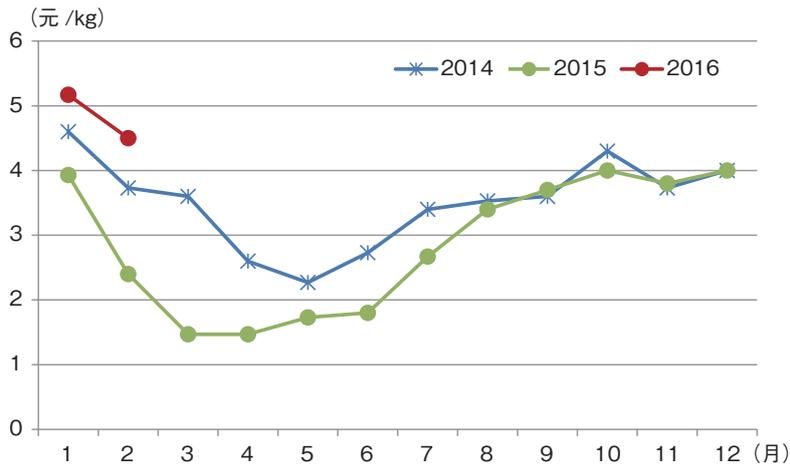
資料：甘肅省農産品營銷管理弁公室

### (2) 価格動向

主な生産地域の価格動向を見ると、雲南省では、他の地域に先駆けて出荷が始まる1月には高価格で取引が行われる（図6）。

山東省、甘肅省では、それぞれ収穫期には供給増により価格が下落するが、2015年は、生産量が前年を下回ったことから、高水準で推移した（図7、8）。

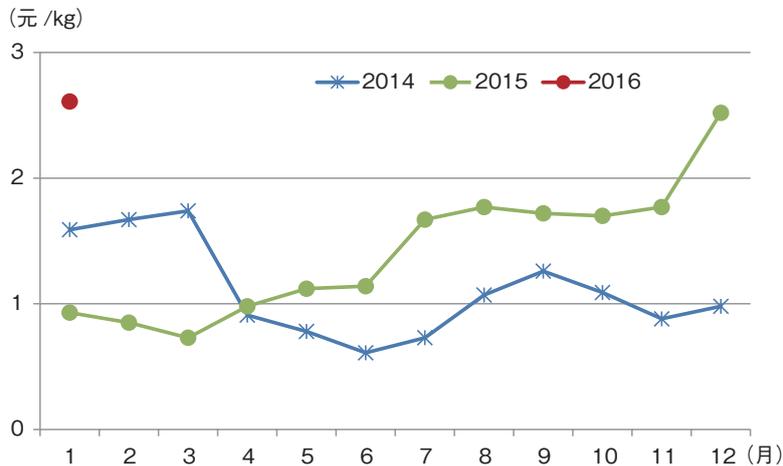
図6 たまねぎの平均卸売価格の推移（雲南省）



資料：中国蔬菜網

注：雲南省「通海県秀山鎮金山蔬菜批發市場」の毎月の販売量と金額から算出（加重平均値）。

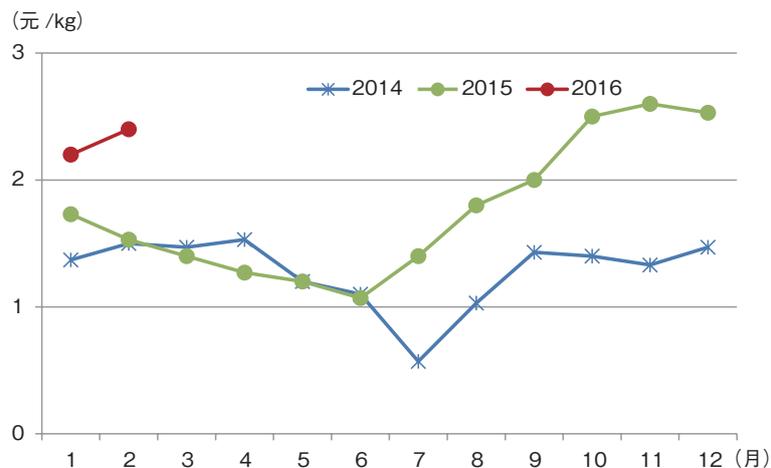
図7 たまねぎの平均卸売価格の推移（山東省）



資料：中国蔬菜網

注：「寿光農産品物流園」の毎月の販売量と金額から算出（加重平均値）。

図8 たまねぎの平均卸売価格の推移（甘肅省）



資料：中国蔬菜網

注：「甘肅騰勝農産品集団股份有限公司」の毎月の販売量と金額から算出（加重平均値）。

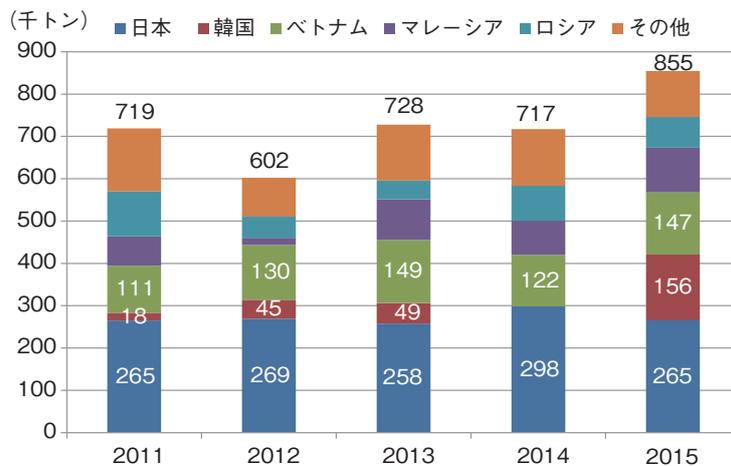
### (3) 輸出動向

中国産たまねぎの主な輸出先国は、日本、韓国、ベトナム、マレーシア、ロシアであり、日本は、第1位となっている（図9）。2015年は、干ばつにより自国での生産が落ち込んだ韓国向けが増えたため、総輸出量は前年比2割増の85万5000トンとなった。

日本と韓国向けには、横径8センチメートル以上のものが、ロシア向けには、横径8センチメートル以下のものが輸出されている。また、東南アジア向けには、赤たまねぎが主に輸出されている。

なお、日本向けには、皮をむいたもの「むきたま」が多く輸出され、加工・業務用などに仕向けられている（写真1、2）。

図9 たまねぎの国別輸出量の推移



資料：「Global Trade Atlas」  
注：たまねぎ（生鮮、冷蔵）HS07031010。



写真1 たまねぎ加工風景  
(輸出用のむきたまの選別中)



写真2 むきたま

## 2 米国

米国からは、日本への輸出が多いブロッコリー、レタス、セルリー（セロリ）（以下「セルリー」という）について、それらの主産地であるカリフォルニア州を中心とした生産動向を紹介する。

### (1) ブロッコリー

#### ア 作況および作付面積

2月初旬から中旬にかけて、フレズノ郡でブロッコリーの収穫が行われ、モントレイ郡では直まきが行われた。また、インペリアル郡からの出荷も順調である（図1）。

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によれば、カリフォルニア州に

おける2015年のブロッコリーの収穫面積は前年から4.2%減少した。また、生産量も同7.1%減の83万4606トンとなった。

なお、本稿中のドルはすべて米ドルであり、為替レートは1米ドル115円（2016年2月末日TTS相場：114.62円）を使用した。

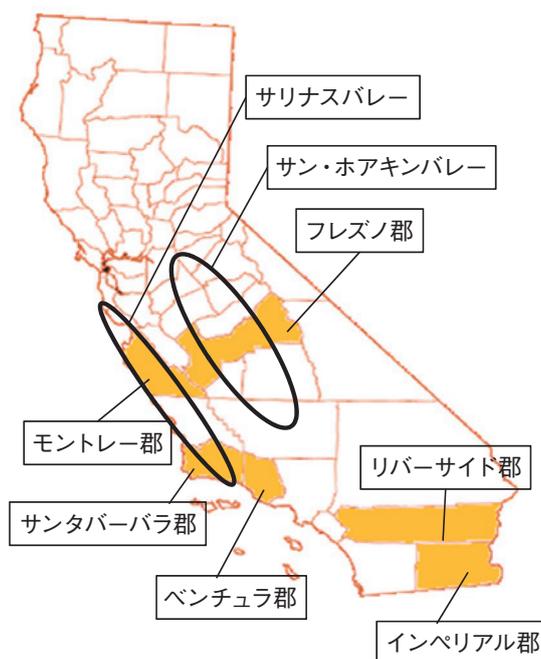
表1 カリフォルニア州のブロッコリー面積、生産量および単収

（単位：ha、トン、トン/10a）

	2013年	2014年	2015年	対前年比 (増減率)
作付面積	50,991	49,372	47,349	▲ 4.1%
収穫面積	50,182	48,563	46,539	▲ 4.2%
生産量	928,045	898,108	834,606	▲ 7.1%
単収	1.85	1.85	1.79	▲ 3.2%

資料：米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）「Vegetables 2015 Summary」（2016年2月公表）

図1 カリフォルニア州の地図



資料：カリフォルニア州ホームページの地図より機構作成

## イ 生産者価格

2015年12月のブロッコリーの生産者価格は、供給量に比べて引き合いが強かったため、12月は前年同月比2.6倍となる1キログラム当たり1.87ドル（215円）となるなど昨年末から高値で推移していた

が、1月下旬から需給が落ち着いたことにより下落に転じている。2月初旬の時点では1カートン（14個）当たり6ドル（1キログラム当たり67円。気配値。以下同じ）強で出荷されているが、品質にばらつきが生じている。

表2 全米の生鮮ブロッコリーの生産者価格

(単位：米ドル/kg)

	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生産者価格	0.73	1.48	0.66	1.05	1.12	1.20	0.76	0.84	1.10	1.26	1.28	1.43	1.87

資料：米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）

## ウ 対日輸出動向

2015年12月には過去2年で最も少ない167トンのブロッコリーが日本向けに輸出された。減少した要因として挙げられ

るのは、同時期の米国産の作柄不良に伴う供給不足である。輸出単価は2015年で最も高い水準となる1キログラム当たり約1.44ドル（166円）であった。

表3 米国産ブロッコリーの対日輸出量および輸出額

(単位：トン、千米ドル、米ドル/kg)

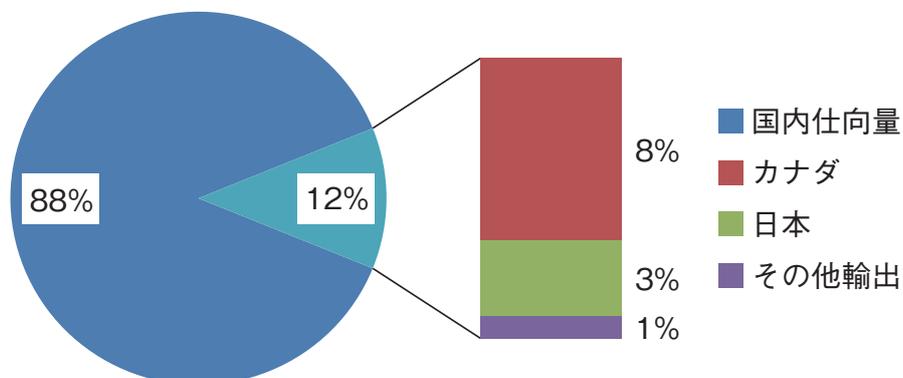
	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
輸出量	1,702	832	1,072	1,042	3,667	2,355	2,270	2,313	1,961	1,986	1,119	619	167
輸出額	1,826	916	1,176	1,241	4,215	2,731	2,832	2,932	2,580	2,710	1,485	794	240
単価	1.07	1.10	1.10	1.19	1.15	1.16	1.25	1.27	1.32	1.36	1.33	1.28	1.44

資料：米国農務省海外農務局（USDA/FAS GATS Database）

カリフォルニア州食料農業局（CDF A）によって1月末に公表されたカリフォルニア農業統計報告書（California Agricultural Statistics Review 2014～2015）によれ

ば、2015年、カリフォルニア州のブロッコリー生産量の12%が輸出向けであった。日本は同州にとってカナダに次ぐブロッコリー輸出先国である。

図2 カリフォルニア州のブロッコリー生産量に占める輸出割合（2014年）



資料：カリフォルニア州食料農業局（CDF A）「Agricultural Statistics Review, 2014-2015」  
注：2014年の生産量は898千トン。

## エ 東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2015年12月、東京都中央卸売市場では2015年で最も少ない18トンの米国産ブロッコリーが入荷された。平均価格も2015年で最も安い1キログラム当たり

173円であった。12月に同市場で最も入荷量が多かったブロッコリーは愛知県産（1000トン強）で、平均価格は米国産を12%下回る1キログラム当たり152円であった。

表4 東京中央卸売市場の米国産ブロッコリーの入荷量および平均卸売価格

(単位：トン、円/kg)

	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入荷量	65	56	41	101	166	174	174	172	159	142	126	54	18
卸売価格	341	413	407	388	438	356	354	342	351	435	416	306	173

資料：東京都中央卸売市場

## (2) レタス

### ア 作況および作付面積

1月末から2月中旬にかけて、フレスノ郡ではレタスの収穫が行われた。また、2月中旬の時点ではモンレー郡においてレタスのは種が行われた。モンレー郡サンタマリアなどでは、例年1月に作付けが完了し4月には収穫が始まるが、2016年は1月下旬の降水量が多く、同地域のは種作業に影響が生じることが懸念されている。

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によれば、カリフォルニア州における2015年の収穫面積は結球レタスが前年比4.9%減、リーフレタスも16.3%減と減少した。ロメインレタスは前年と同水準を維持した。また同年の生産量は結球レタスが約149万トン（前年比2.4%減）、リーフレタスが約45万トン（同9.3%減）、ロメインレタスが約85万トン（同5.4%増）であった。

表5 カリフォルニア州のレタス面積、生産量および単収

(単位：ha、トン、トン/10a)

		2013年	2014年	2015年	対前年比 (増減率)
結球レタス	作付面積	39,255	37,231	35,208	▲5.4%
	収穫面積	38,850	36,827	35,006	▲4.9%
	生産量	1,524,062	1,527,238	1,490,950	▲2.4%
	単収	3.92	4.15	4.26	2.7%
リーフレタス	作付面積	19,425	18,616	15,985	▲14.1%
	収穫面積	19,223	18,616	15,581	▲16.3%
	生産量	495,547	500,763	454,044	▲9.3%
	単収	2.58	2.69	2.91	8.2%
ロメインレタス	作付面積	29,138	25,900	25,900	0.0%
	収穫面積	28,733	25,698	25,698	0.0%
	生産量	933,942	806,483	849,710	5.4%
	単収	3.25	3.14	3.31	5.4%

資料：米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）「Vegetables 2015 Summary」（2016年2月公表）

## イ 生産者価格

2015年12月の結球レタスの生産者価格は、寒波による出荷量の減少から、前年

同月比3.3倍となる1キログラム当たり1.14ドル（131円）であった。その後、1月中旬、東海岸が積雪と寒波に覆われた

影響でレタスの需要が減少し、価格は一時下落したものの、2月の2週目には天候が平年並みに回復したことで需要が持ち直し回復したことにより、価格は落ち着きを取り戻している。2月初旬の時点では結球レ

タスは1カートン当たり約8ドル（1キログラム当たり40円）、ロメインレタスは約10ドル（同51円）、グリーンリーフレタスは8ドル（同40円）強で取引された。

表6 全米の結球レタスの生産者価格

(単位：米ドル/kg)

	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生産者価格	0.35	0.84	0.34	0.42	0.51	0.55	0.67	0.41	0.79	1.08	0.76	1.32	1.14

資料：米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS)

### ウ 対日輸出動向

2015年12月には49トンの結球レタスが日本向けに輸出された。これは前年同月比7割程度に相当する。結球レタスの輸出

単価は下落し、1キログラム当たり1.04ドル（120円）となった。また、その他レタスの輸出量は22トン、輸出単価は同1.95ドル（224円）であった。

表7 米国産レタスの対日輸出量および輸出額（結球レタス）

(単位：トン、千米ドル、米ドル/kg)

	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
輸出量	67	81	14	6	105	241	195	411	308	245	299	182	49
輸出額	95	131	56	22	123	324	263	473	384	278	306	207	51
単価	1.42	1.62	4.00	3.67	1.17	1.34	1.35	1.15	1.25	1.13	1.02	1.14	1.04

資料：米国農務省海外農務局 (USDA/FAS GATS Database)

表8 米国産レタスの対日輸出量および輸出額（結球レタス以外）

(単位：トン、千米ドル、米ドル/kg)

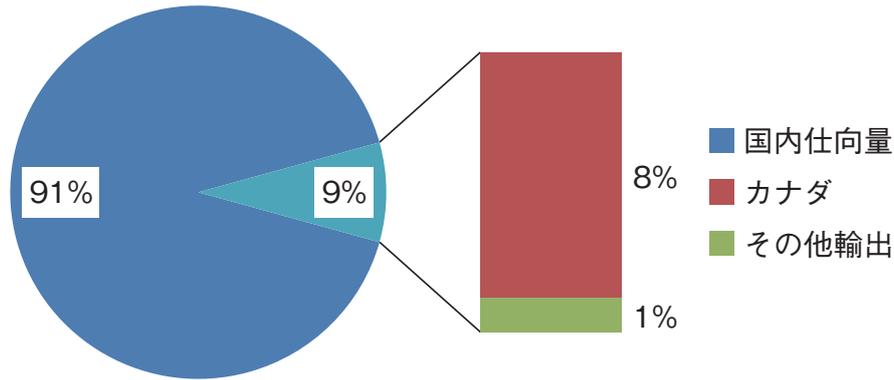
	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
輸出量	4.0	2.3	5.2	2.1	17.8	4.4	3.8	9.2	14.2	46.0	54.9	3.8	21.5
輸出額	14	16	17	10	58	10	7	16	22	109	71	6	42
単価	3.50	6.96	3.27	4.76	3.26	2.27	1.84	1.74	1.55	2.37	1.29	1.58	1.95

資料：米国農務省海外農務局 (USDA/FAS GATS Database)

2014年にカリフォルニア州で生産されたレタスの9%が輸出され、そのほとんど

がカナダ向けであった。

図3 カリフォルニア州のレタス生産量に占める輸出割合（2014年）



資料：カリフォルニア州食料農業局（CDFA）「Agricultural Statistics Review, 2014-2015」

注1：結球レタス、リーフレタス、ロメインレタスをあわせた数字。

注2：2014年の生産量は、2834千トン。

### エ 東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2015年12月、東京都中央卸売市場では50キログラムの米国産結球レタスが入荷され、卸売価格は1キログラム当たり43円であった。結球レタス以外の米国産レタ

ス（ロメインレタス、フリルレタスなど）の入荷量は11月同様、0.4トンであった。結球レタス以外のレタス卸売価格は1キログラム当たり413円と、前月の価格からやや低下したものの、前年同月の約3割高であった。

表9 東京中央卸売市場の米国産レタスの入荷量および平均卸売価格（結球レタス以外）

（単位：トン、円/kg）

	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入荷量	1.9	2.8	1.5	0.7	1	1.1	1.2	0.2	0.03	0.4	0.6	0.4	0.4
卸売価格	319	297	301	292	322	330	338	410	410	426	410	445	413

資料：東京都中央卸売市場

### (3) セルリー

#### ア 作況および作付面積

カリフォルニア州産のセルリーの供給は、病害や悪天候の影響などにより2015年末から不安定であったが、平年並みに回復しつつある。ただし、昨年末から1月にかけて収穫を前倒しして需要に対応した生産者がいるため、3月に入るまで平年並みの出荷量は見込めない状態である。なお、

2月に出荷されているセルリーの品質はおおむね良好である。

米国農務省全国統計局（USDA/NASS）によれば、カリフォルニア州における2015年のセルリーの収穫面積は前年から4.8%増加し、過去5年で最大となる1万1534ヘクタールを記録した。しかし、単収の低下により生産量は77万5639トンと前年を1.8%下回った。

表10 カリフォルニア州のセルリー面積、生産量および単収

(単位：ha、トン、トン/10a)

	2013年	2014年	2015年	対前年比 (増減率、%)
作付面積	11,129	11,250	11,655	3.6%
収穫面積	10,927	11,008	11,534	4.8%
生産量	769,652	789,609	775,639	▲1.8%
単収	7.04	7.17	6.72	▲6.3%

資料：米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS)

### イ 生産者価格

2015年12月のセルリーの価格は、寒波による出荷量の減少から、1キログラム当たり1.32ドル(152円)であった。1月末に入り、ブロッコリーやレタスを含む野菜の価格は全体的に下落傾向にあったものの、セルリーにおいては需要が供給を上回る状況が続き、価格は高騰を続けていた。

2月に入り供給量が増加するに伴い価格はやや下落したものの、依然として高止まりしている。2月の2週目の時点では、ベンチュラ郡産セルリーは1カートン(24茎)当たり約18ドル(1キログラム当たり76円)、リバーサイド郡産は約19ドル(同81円)、インペリアル郡産は約17ドル(同72円)で取引された。

表11 全米の生鮮セルリーの生産者価格

(単位：米ドル/kg)

	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生産者価格	0.63	0.43	0.32	0.31	0.41	0.59	0.39	0.38	0.52	0.50	0.62	0.89	1.32

資料：米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS)

### ウ 対日輸出動向

2015年12月には過去2年で最も少ない230トンのセルリーが日本向けに輸出

された。これは前年同月比36.1%減に相当する。輸出単価は1キログラム当たり0.72ドル(83円)であった。

表12 米国産セルリーの対日輸出量および輸出額

(単位：トン、千米ドル、米ドル/kg)

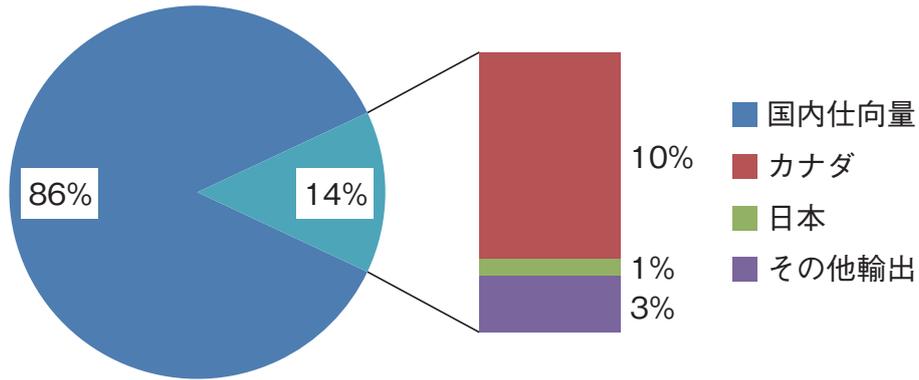
	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
輸出量	360	535	105	915	587	1,024	828	413	501	654	423	444	230
輸出額	236	380	129	614	385	662	516	287	311	447	282	324	166
単価	0.66	0.71	1.23	0.67	0.66	0.65	0.62	0.69	0.62	0.68	0.67	0.73	0.72

資料：米国農務省海外農務局 (USDA/FAS GATS Database)

2014年にカリフォルニア州で生産されたセルリーの14%が輸出向けであった。

日本は同州にとってカナダに次ぐセルリー輸出先国であった。

図4 カリフォルニア州のセルリー生産量に占める輸出割合（2014年）



資料：カリフォルニア州食料農業局（CDFA）「Agricultural Statistics Review, 2014-2015」  
注：2014年の生産量は790千トン。

### エ 東京都中央卸売市場における入荷量および価格

2015年12月、東京都中央卸売市場では前年同月比34%減の25トンの米国産セルリーが入荷され、卸売価格は1キログラ

ム当たり178円（前年同月比7.2%高）であった。同市場で最も入荷量が多かったセルリーは静岡県産（約480トン）であり、平均価格は米国産を上回る同229円であった。

表13 東京中央卸売市場の米国産セルリーの入荷量および平均卸売価格

（単位：トン、円/kg）

	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入荷量	38	25	12	20	35	35	39	38	38	32	32	24	25
卸売価格	166	182	214	200	183	179	187	188	194	187	189	171	178

資料：東京都中央卸売市場